

町の魅力凝縮CMに

三戸 青森県立三戸高(西町年古校長)

1、2年生計13本

長(の生徒たちが、地元・三戸町の魅力を発信するCMの制作に取り組んでいる。1、2年生がグループに分かれて、計13本の動画を制作した。町は22日に町役場で審査会を開き、選ばれた1作品を町の代表として青森朝日放送主催の「第23回ふるさと自慢わがまちCM大賞」に応募する予定だ。

(熊谷勝之)

三戸高生、制作の町PRポスターと連動

同校では昨年度、クリもあつたばよ「などのエッセイ部の現2年生が、キャッチコピーをひねり三戸高PRポスターを制作し、その思いが伝わる作品が、今年は1年生写真と合わせて14作品の25人が町をPRするポスターを完成させた。2人が町をPRするポスター制作に挑戦した。グループごとに「たくさん制作に挑戦して行い、選の歴史がある」「治安が抜けては本を制作。フォロイ」「町の人が元気」「トセンター惣店(八戸市)などの町の魅力を話し合の松川雄史さんらが指導いで意見集約。「大正口に当たった。松川さんはマンツーマンでなんかもいい」生徒に撮影する画面の決「たぶん、日本で一番平め方や動かし方などのコツを教え、生徒たちが出和「今日も暑いね、煎餅

代表選抜「CM大賞」応募へ

演者や撮影者となって動画を撮った。浴衣姿で町の中心街や国登録有形文化財の佐藤本店を巡った1年の田中裕さん(15)は、「三戸秋まつりの400年の歴史や、まつりを大事にする町の人たちの心を伝えようと思った」とCMの狙いを説明。その上で「仲間と相談しながら動画の内容を決めるのがとても辛かった」と笑顔を見せた。松川さんは「生徒は想像以上によく考えて取り組んでおり、ものづくりの素養が備わっていると感じた。いいCMが出そろったのを期待している」と話した。



三戸町のCM撮影に取り組む生徒



完成した三戸PRポスター14作品